

昭和五十三年六月招集

第二回館山市議定会定例会會議錄第四号

館山市議會

目次

日時	二
場所	二
出席議員	二
欠席議員	二
出席説明員	二
出席事務局職員	二
議事日程	二
開議	三
出席説明員の報告	三
議案の配付	三
議長の報告	三
議案第三十一号、議案第三十三号	三
総務委員会委員長報告	三
渡辺軍治郎君の討論	四
採決	六
議案第三十四号、議案第三十八号	六
文教民生委員会委員長報告	六
同報告に対する渡辺軍治郎君の質疑	七
渡辺軍治郎君の討論	八
矢戸 寿夫君の討論	八
採決	九
議案第三十九号	九
建設経済委員会委員長報告	九

採決	一〇
請願第一号	一〇
総務委員会委員長報告	一〇
継続審査について	一一
議案第四十号	一一
内容説明	一一
委員会付託の省略	一一
採決	一一
議案第四十一号	一二
内容説明	一二
林 豊君の質疑、当局の応答	一二
辻田 実君の質疑、当局の応答	一三
委員会付託の省略	一四
採決	一四
閉会	一四
本日の会議に付した事件	一四

昭和五十三年六月二十七日（火曜日）午前十時

館山市役所議場

出席議員 二十八名

一番	吉田勇治郎	二番	伊藤幸太郎
三番	穴戸寿夫	四番	押元 稔
五番	黒川平治	六番	鈴木正義
七番	本間昭二	八番	松下正己
九番	鈴木 稔	一〇番	流山源次郎
一番	近藤好雄	一二番	栗原一雄
一番	林 豊	一四番	石井輝久
一番	辻田 実	一六番	安西益男
一七番	石井武敏	一八番	渡辺軍治郎
一九番	渡辺昭夫	二〇番	和田一郎
二二番	五十嵐昇	二三番	菊井敏博
二四番	西村真次	二五番	伊賀多朗
二六番	藤田益治	二八番	石井 正
二九番	望月照正	三〇番	山口 康
欠席議員 二名			
二一番	田中祿郎	二七番	遠山ヨネ子

出席説明員

第一号に加えて、選挙管理委員会委員長

選挙管理委員会事務局書記長

鈴木 正
渡辺 弘

出席事務局職員

第一号に同じ

議事日程（第四号）

昭和五十三年六月二十七日午前十時開議

議案第三十一号

非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第一 議案第三十二号

館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第三十三号

館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第三十四号

館山市立幼稚園保育料徴収条例の一部を改正する条例の制定について

議案第三十五号

館山市学校安全共済掛金徴収条例の一部を改正する条例の制定について

日程第二 議案第三十六号

館山市青年館の設備及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第三十七号

館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

議案第三十八号

館山市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について

日程第三 議案第三十九号

公有水面埋立免許に関する答申について

日程第四 請願第一号

日中平和友好条約締結促進に関する請願書

日程第五 議案第四十号

人権擁護委員候補者の推薦について

日程第六 議案第四十一号

昭和五十三年度館山市一般会計補正

予算(第一号)

開

議 午前十時三分開議

○議長(吉田勇治郎君)

本日の出席議員数二十八名、これより第二回市議会定例会第四日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

出席説明員の報告

○議長(吉田勇治郎君)

この際、申し上げます。

本日の議案審議のため、地方自治法第二百一十一条の規定による出席要求に対し、鈴木達孝管理委員会委員長、渡辺選挙管理委員会書記長が出席する旨の報告がありましたので御了承願います。

議案の配付

○議長(吉田勇治郎君)

議案を配付いたさせます。

議案の配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議長 の 報 告

○議長(吉田勇治郎君)

この際、申し上げます。

総務委員会に付託されました議案の審査に際し、資料要求をいたしましたところ、市長より提出されました。

議員各位にも関係がありますので、お手元に配付してござい

ますので申し添えます。

議案 の 上 程

○議長(吉田勇治郎君)

日程第一、議案第三十一号ないし議案第三十三号の名議案を一括して議題といたします。

議案第三十一号

非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第三十二号

館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第三十三号

館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

総務委員会委員長報告

○議長(吉田勇治郎君)

ただいま議題となりました各議案は、去る六月二十二日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長栗原一雄君御登壇願います。

(総務委員会委員長栗原一雄君登壇)(拍手)

○総務委員会委員長(栗原一雄君)

去る六月二十二日の本会議において総務委員会に付託されました議案三件について、翌二十三日委員会を招集し、各議案の内容審査を行いました。

その経過及び結果について御報告申し上げます。

まず初めに、議案の審査結果について申し上げます。議案第三十一号非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第三十二号館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第三十三号館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する条例の一部を改正する条例の制定について、以上の三議案について慎重な審査の結果、全員それぞれ原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

各議案とも特別職の給与、報酬の改定議案であり、関連いたしておりますので、一括して審査を行いました。

今回の給与、報酬の改定は、市長等常勤特別職につきましては一般職員ですでに実質支給額が収入役を上回るものが出ており、議会の議員報酬については県下各市の最低にあることなど諸般の事情等を勘案して改定するものであるとの説明を受けておるところであります。本委員会におきましては、さらに詳細に県下各市の資料をもとに説明を求めました。

特に、審査の経過におきましては種々論議がかわされ、特別職の給与、報酬の額については原則的な基準がなく、他市との状況、財政状況、財政構造等により決定されていますが、特に議員の報酬改定については議決機関の議員としての職責及び議員活動の実態を市民に理解できるよう周知を図り、また改定に当たっては一般職の人事院勧告等に合わせ見直していく考え方を検討されるよう要望がなされました。

以上の強い要望諸点については、質疑の中で市当局より今後の

行政執行に当たり十分考慮する旨の答弁がありました。

以上、審査の概要を御報告申し上げます。満場の御賛同をたまわりますようお願いいたします。総務委員会の報告を終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、委員長報告を終ります。

ただいまの委員長報告について御質疑を願います。

御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

以上で、質疑を終ります。

討 論

○議長（吉田勇治郎君） これより討論に入ります。

通告がありますので、順次発言を許します。

一八番渡辺軍治郎君登壇願います。

（一八番議員渡辺軍治郎君登壇）

○一八番（渡辺軍治郎君） 私は、議案第三十一号非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について反対の討論を行います。

この条例の改正は議長、副議長、議員の報酬をそれぞれ増額しようとするのですが、議員は月額十六万円を二十万円に、副議長は十七万五千円を二十二万円に、議長は二十万円を二十五万円にするもので、上昇率は二五％、一般職員の給料の上昇率六％内外と比較してこれは大幅な増額になっています。

市長は、提案説明で県下他市との状況を勘案して改正したと言っていますが、他市には他市の条件があり、館山市には市独自の立場があります。したがって、市長の言う改正の根拠はありません。

参考に他市と比較した場合、改正後の報酬は県下及び全国平均を相当上回るものとなります。このような条件が館山市にあるとは考えられません。

市長は、財政事情について十分と言えないが、好転しているなどと言っていますが、借入金増大、市民サービスの低下等財政事情が好転しているという指標はどこにもありません。依然として長引く不況、インフレ円高という厳しい情勢は続いています。

このような中で、市長は五十一年度から五十二年度にわたり、応分の負担は当然であるとして使用料、手数料等公共料金の値上げで市民生活を圧迫してきました。また行政面でも各課の整理統合、人減らし合理化で人件費の削減を貫いてきました。

五十三年度は、従来の方針とは逆に部長制の導入、管理職手当の引き上げ、特一等級の新設など人件費の増大を図り、今回は議員報酬の大幅な引き上げを提案するなど全く市民に背を向けた反動的なものというほかありません。

市長は、報酬審議会の答申を得たと言っていますが、審議会はかくれみので、お手盛りだという市民の批判に対して説得力を持たないものであります。

今回の常勤、非常勤特別職の給与の引き上げ分合計は年間千六百五十万円の財源を必要とします。このような財源があるなら市民の要望にこたえ有効に使うよう主張するのが議員の責務ではないでしょうか。

議員の一部から議員定数を減らすという意見がこの時期に出てきたことは、大幅な議員報酬の引き上げに対する市民の批判をそらすとしたものとしか考えられません。

市民感情を無視したこのような報酬の引き上げに賛成することはできません。よって、議案第三十一号に反対するものであります。

(「異議があるな」と呼ぶ者あり)

異議はありません。異議があるというのは、これは、
(「壇上で私語なんて、とてもない」と呼ぶ者あり)

次に、議案第三十二号館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について反対討論を行います。

この条例の改正は、市長、助役、収入役の給与をそれぞれ増額しようとするもので、市長は月額四十六万円を五十二万円に、助役は三十八万円を四十三万円に、収入役は三十六万円を四十一万円に、上昇率一三%の増額になります。

市長は、提案理由の説明で、一般職の給与改定で不均衡が生じたため、改定が必要となったと言っていますが、一般職の給料の最高は特一等級の二十号で三十六万六千九百円であります。館山市と同規模の二百十一市の平均給料は市長四十七万八千円、助役三十九万七千円、収入役三十五万八千円で、増額後の給料は全国平均を相当上回る額になります。

館山市の財政事情からすれば、特別職だからといって、一般職より大幅に増額しなければならぬ根拠はありません。報酬審議会の承認を得たと言っていますが、お手盛りという批判は免れません。議員報酬の引き上げに反対した同じ趣旨に基づいて議案第三十二号に反対するものであります。

次に、議案第三十三号館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に

関する条例の一部を改正する条例の制定について反対の討論を行います。

○この条例改正は、教育長の給与を月額三十六万円から四十万円に増額しようとするものです。市長の提案説明では、従来教育長の給与は市長等三役に準じて改定してきたので、収入役と同額程度にしたいということで格別の理由はありません。したがって、市長等三役の給与の引き上げに反対したと同様の趣旨、また議員報酬の引き上げに反対した趣旨と同様、時宜を得たものとして認めるわけにはまいりません。よって、議案第三十三号に反対するものであります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、通告者による討論は終わりましたが、通告しない方で討論はございませんか。——討論なしと認めます。討論を終わります。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。採決は起立により一括して行います。

議案第三十一号ないし議案第三十三号についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数であります。よって、議案第三十一号ないし議案第三十三号の各議案はいずれも原案のとおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第二 議案第三十四号ないし議案第三十八号の各議案を一括して議題といたします。

議案第三十四号 館山市立幼稚園保育料徴収条例の一部を改正する条例の制定について

議案第三十五号 館山市学校安全共済掛金徴収条例の一部を改正する条例の制定について

議案第三十六号 館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第三十七号 館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

議案第三十八号 館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

文教民生委員会委員長報告

○議長（吉田勇治郎君） ただいま議題となりました各議案は、去る六月二十二日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長近藤好雄君御登壇願います。

（文教民生委員会委員長近藤好雄君登壇）（拍手）

○文教民生委員会委員長（近藤好雄君） 去る六月二十二日の本会議において文教民生委員会に付託されました議案第三十四号ない

し議案第三十八号の五議案につきまして、六月二十三日午後一時委員会を招集いたしましたして各案件について慎重審議いたしました、その結果並びに経過について御報告申し上げます。

まず、議案審査の結果について申し上げます。議案第三十四号館山市立幼稚園保育料徴収条例の一部を改正する条例の制定について、議案第三十五号館山市学校安全共済掛金徴収条例の一部を改正する条例の制定について、議案第三十六号館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について、議案第三十七号館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について、以上四件につきましては全員一致原案どおり可決すべきものと決定いたしました、議案第三十八号館山市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定につきましては、一部反対意見もあり、起立採決の結果、賛成多数をもって原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

以上が審査の結果であります、続きまして、審査の経過の概要について申し上げます。

まず、議案第三十四号につきましては、幼稚園の保育料の徴収にかかる口座振替制度の実施であります、その仕組みの説明を求め、次いで納入者への領収証の件、事務処理の件、口座の預金不足の処理の件等質疑し、さらに保護者との合意の有無等細部にわたり慎重に質疑いたしました、当局の説明により了承いたしました次第であります。

次に、議案第三十五号につきましては、全国的な組織のもとに行われているこの制度でありますので、その給付の状況、また事故の場合の請求事務の流れ及び給付における点数制のチェック等

について質疑いたしました、これにつきましても当局の説明により了承いたしました。

次に、議案第三十六号につきましては、新設青年館の追加議案であります、これに関連いたしました、青年館の維持管理の面について質疑もいたしました、本案についても了承いたしました次第であります。

続きまして、議案第三十七号につきましては、特に保健婦の仕事、役割等について質疑がありましたが、予防医療の重要性とそれらのPR等についての要望がありました。また国保制度についての改善を求める意見も出されましたが、本会議における当局の説明のありましたように、国の来年度の抜本的改正に期待いたします、全員了承いたしました次第であります。

次の議案第三十八号につきましては、保険税の移算については見込み増ではないか等質疑がなされましたが、国の算定方式の採用、医療費の伸びの不安定等その実態の説明がありました。また保険税の上限や超過負担の問題、給付の増額等について一部意見もありましたが、当局におきましても機関を通じ国への要望をいたしました、今後も統ける旨の説明がなされました。

以上、審査の概要を御報告申し上げます、いずれも原案どおり可決すべきものとの結論に達しましたので、満場の御賛同をお願いいたします、文教民生委員会の委員長報告を終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、委員長の報告を終わります。

委員長報告に対する質疑

○議長（吉田勇治郎君） ただいまの委員長報告について御質疑を

願います。

○一八番（渡辺軍治郎君） ただいまの報告の中で満場一致で了承したというふうにあります。私は文教民生委員会の中で反対討論をしたわけですが、それが漏れておると思います。

（「それは重大だ」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 一八番、委員長報告を総合して判断していただきたいと思ひます。

次に進みます。他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

討 論

○議長（吉田勇治郎君） 討論に入ります。

通告がありますので、順次発言を許します。

一八番渡辺軍治郎君登壇願ひます。

（一八番議員渡辺軍治郎君登壇）

○一八番（渡辺軍治郎君） 私は、議案第三十八号国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について、反対の討論を行います。

提案説明では、昭和五十二年国保会計は五月三十一日出納閉鎖され、その結果、七千九百九十四万三千円の差し引き残金を生じ五十三年度に繰り越すことができたので、六千万円を本算定に際し税の軽減に充当したということで、課税の配分に基づいて案分率を改定しようとするものですが、議案第二条では課税限度額を十七万円から十九万円に改めています。この限度を越える、いわゆる切り捨て分は一億五千八百万円あります。この税収があれば

保険税は相当引き下げることができます。国保会計は相互扶助のためであり、所得の多い者が多く負担するのが原則であります。したがって、高額所得者を優遇した課税限度額は廃止するよう要求します。

第五条の均等割で、前年対比で九百六十円、平等割は二千四百円の増となり、一世帯平均で約一万円の増になります。保険税が家計の大きな負担になっている現状から、保険税の軽減は市民の強い要望になっています。

ところが、国保会計では、医療と関係のない事務費の超過負担が二千六百万円、助産費千二百万円、葬祭費六百万円、育児手当百八十万円など合計四千五百八十万円の支出が見込まれ、これが保険税で負担させられています。これらの経費は当然保健婦施設と同じように他会計に移管するよう主張し、保険税軽減の立場から、議案第三十八号に反対するものであります。

○議長（吉田勇治郎君） 次、三番議員矢野寿夫君登壇願ひます。

（三番議員矢野寿夫君登壇）

○三番（矢野寿夫君） 私は、議案第三十八号に賛成の立場から討論をいたします。

国民健康保険はお互いに助け合う相互扶助の精神に基づいた制度であることは論を待たないわけであり。しかしながら、制度の性格上、近年増高の一途をたどる医療費、それに伴う高額医療給付等、保険税の算出に当たってはいろいろ問題点のあることも周知のとおりであります。しかしながら、各市町村においては、国の指導による算出方法を用い、また各給付の拡大等も決定されるので、他の保険制度と比較してもやむを得ないものと考え

ます。今回の改正も相互扶助、応能負担という見地からしても妥当であると思います。

なお、保険制度の抜本的改正を当局としては待ち望んでおるとのお話もありますが、超過負担、給付割合の増額等一日も早く改正にこぎつけられるよう、今後一層国、県への要望を強く推し進めていただくことを要望して本議案に賛成するものです。（拍手）

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、通告者による討論を終ります。通告しない議員で討論ございませんか。——討論なしと認めます。討論を終ります。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） 採決に入ります。

まず、議案第三十四号ないし議案第三十七号の各議案を一括して採決いたします。

議案第三十四号ないし議案第三十七号についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、議案第三十四号ないし議案第三十七号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

次いで、議案第三十八号館山市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定についてを起立により採決いたします。

議案第三十八号についての委員長の報告は原案可決であります

議案第三十八号を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数であります。よって、議案第三十八号は原案どおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第三、議案第三十九号公有水面埋立免許に関する答申についてを議題といたします。

議案第三十九号 公有水面埋立免許に関する答申について

建設経済委員会委員長報告

○議長（吉田勇治郎君） ただいま議題となりました議案第三十九号は、去る六月二十二日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。

よって、これより議案第三十九号に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長流山源次郎君御登壇願います。

（建設経済委員会委員長流山源次郎君登壇）（拍手）

○建設経済委員会委員長（流山源次郎君） 六月二十二日の定例議会で、本建設経済委員会に付託されました議案第三十九号公有水面埋立免許に関する答申についてを、去る六月二十四日午前十時より市役所内第二会議室に委員会を招集し、全委員出席のもとに慎重審査の結果、議案第三十九号については全員原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

なお、審査の過程において各委員より活発な質疑応答が行われ特にしゅんせつ面積と土量の計算についての質問及び添付図の潮位表の見方に関する質疑に対し、調査不十分のため休憩に入つて協議を重ね、答弁もしばしば訂正する件について、今後十分調査をして再度かかることをなきよう要望をしました。

工事費のうち一〇％（一割）地元負担について説明を求めた結果、その内訳は九五％が起債であり、残り五％が地元漁協よりの寄付によるとの説明があり、了解しました。

また、同漁港の水揚げ高は、本件が議決され漁港が改善された場合ふえるかとの質問に対し、昭和五十一年一月から十二月までの水揚げ高は十二億二千九百七十九千円だったが、さらに増加が期待されることなので、結論として全会一致で本案を承認することに決定いたしました。

以上をもつて、本委員会の審査経過及び結果について委員長報告といたしますが、満場の御賛同をお願いいたしまして報告を終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑を願います。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

討論に入ります。

討論ございませんか。——討論なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

議案第三十九号についての委員長の報告は原案可決であります。

議案第三十九号を委員長の報告どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よつて、議案第三十九号は原案どおり可決されました。

請願書の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第四、請願第一号日中平和友好条約締結促進に関する請願書を議題といたします。

請願第一号 日中平和友好条約締結促進に関する請願書

総務委員会委員長報告

○議長（吉田勇治郎君） ただいま議題となりました請願書は去る三月二十七日の本会議において閉会中の継続審査ということで総務委員会に付託されたものであります。

よつて、これより本請願に対する総務委員会における審査の経過につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長栗原一雄君御登壇願います。

（総務委員会委員長栗原一雄君登壇）（拍手）

○総務委員会委員長（栗原一雄君） 閉会中の継続審査として本委員会に付託されております請願第一号日中平和友好条約締結促進に関する請願書について、二十三日委員会を招集し審査を行いました。以下、審査の経過について御報告申し上げます。

本請願書につきましては、国政における重要な政治課題として論議されておる問題であり、また外交に関する問題でもありますので、なお慎重に審査を要するとの観点から、引き続き審査終了

まで閉会中の継続審査とすることに決定いたしましたので、御了承たまわりますようお願いいたします。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、委員長の報告を終わります。

継続審査について

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

ただいまの委員長報告のとおり、本請願につきましては、さらに慎重審査の必要上、審査終了するまで閉会中の継続審査といえますことに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、決しました。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第五、議案第四十号人権擁護委員候補者の推薦についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

議案第四十号 人権擁護委員候補者の推薦について

議案の内容説明

○議長（吉田勇治郎君） 議案の説明を求めます。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 人権擁護委員法第六条第三項の規定により欠員となりました委員候補者として小幡道太郎さん、鈴木重さ

んを最も適任と信じて推薦を申し上げたいと思うわけでございます。二人とも再任でございます。

よろしく御審議のほどをお願いいたします。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、説明は終わりました。

御質疑を願います。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論を省略直ちに採決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

採決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第六、議案第四十一号昭和五十三年度館山市一般会計補正予算を議題といたします。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

議案第四十一号 昭和五十三年度館山市一般会計補正予算(第

一号)

議案の内容説明

○議長(吉田勇治郎君) 議案の説明を求めます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 議案第四十一号昭和五十三年度館山市一般会計歳入歳出補正予算第一号を追加議案としてお願いすることとなりましたが、これは千葉県議会議員補欠選挙が急遽執行されることになりましたので、これが執行経費にかかわる予算を追加するため補正予算をお願いするものであります。

歳入歳出予算の総額に五百六十八万円を追加し、歳入歳出それぞれ六十一億四千三百四十五万八千円としようとするものであります。

歳入については全額県委託金であり、歳出については各節に係経費を計上して処置しました。この内容は、大きなものは投票日が日曜日が予定されておりますので、職員手当がおもなものであります。その他は各節に必要な経費を計上いたしました。

詳細につきましては御質疑によりお答えしたいと存じますのでよろしく御審議たまわりますようお願いいたします。

○議長(吉田勇治郎君) 説明は終わりました。

質 疑 応 答

○議長(吉田勇治郎君) 御質疑願います。

○一三番(林 豊君) 御質問を申し上げます。

この歳出の方の十三節でございますが、ここに委託料臨時啓発委託料として五万円を計上されております。私は諸般の事情をかんがみて、この五万円というものがこれで果して選挙を啓蒙するに十分であるかどうか。他市等の例を挙げながら御説明をお願いしたいと存じます。

○選挙管理委員会事務局書記長(渡辺 弘君) お答えいたします。

十三節委託料につきましては、これはこの県議の補欠選挙にかかわる臨時委託料でございます。このほかに常時委託料が予算化されております。なお、この委託料につきましては、明るい選挙推進協議会臨時啓発といたしまして、棄権防止さらに明るく正しい選挙これを推進、啓蒙するために計上したわけでございますが、御質問の各市の状況につきましては現在資料を持ち合わせておりません。

○一三番(林 豊君) 非常に大切なことだろうと考えます。公

明選挙の啓蒙でございますので、もう少し金額を上げて徹底した啓蒙運動をやっていたきたいというふうに思いますけれども、市長さんの御意見いかがです。

○市長(半澤良一君) 御趣旨大変ごもっともでございます。明るい正しい選挙が行われることを大いに期待いたすものでございますが、今回のこの五万円は、この臨時の補欠選挙に対する委託金でございます。そのほかに予算で現在すでにいろいろの項目県知事選とか、来年四月に行われる県議会選挙等の予算が組んであるわけでございます。これはやはり一時的なものでなくて、継続的に年間を通して選挙に際して行いべきだというふうに考えて

おります。今回の選挙にしましては、この程度の委託料で選挙の啓蒙を行いたいと考えております。

〇一三番（林 豊君） 市長のお考えごもつともでございますし

うけれども、非常に現在選挙というものに対する市民の認識というものが、あるいは間違っているのではないかとというふうな考え方もあるわけでございまして、これからいろいろ選挙が行われるわけでございますが、ひとつこの明るい公明選挙というものの推進については特に意を用いて、市独自の考え方で明るい選挙の行われるような施策も講じながら、予算等も考えていただくことを要望いたしまして、質問を終わります。

〇一五番（辻田 実君） 二点、内容について御質問いたします。

一つは、歳出の部の中の報償費でございすけれども、ここに啓発宣伝謝礼一万円という額でございすけれども、この性質はどういう性質のものなのか。

それから、投票所の雑役謝礼一万五千円ということでございますけれども、投票所は何か所県会の場合に予定するのか。その雑役謝礼という額がどのぐらいの単価でそれが出されておるのか。額が少ないように感じられますので、その内容について全くこれだけなのか、その点について伺いたいします。

それからもう一つは、十五節工事請負費でございすけれども、ポスター掲示場設置及び撤去工事請負費でございすけれども、県会議員の場合にいままで私の感じというんですか、記憶で申しわけないんですけども、ポスターの掲示場所は設置してなかったように思われるし、県会議員は市町村会議員と同じ選挙法が適用になって、ポスターの枚数制限があるわけでございす。

これと、二、三日前に県の関係者から候補者はどのくらいになるのか、それによってポスターの数があれだからということでもって、社会党から出るか出ないか、それによってポスターの入れる数をふやさなければいけないという、こういう話を聞いたものですから、選挙のポスターというんですか、候補者のポスターを張る掲示板かなんかと思つて、その設置云々ということになりますと、何か所ぐらいの設置場所になるのか。それとも啓発のためのものか、啓発のポスターなのか、そのどちらかを聞いたということ、さらに啓発のポスターであれば市の掲示板がかなりあるはずですから、そこでずっと間に合つて撤去云々ということがなされないような気もするんですが、公営のポスターでしたら、どのぐらいのものをどうするのか。そうしてさらにポスターの掲示板に張れないポスターの関係はどうなるのか。そこらへんについての予算等内容について若干伺いたい。どのようになつておるかお伺いしたいわけでございす。

○選挙管理委員会事務局書記長（渡辺 弘君） お答えいたします。

第一点の報償費でございすが、このうち啓発宣伝謝礼につきましては、地元新聞社二社に対しまして棄権防止、選挙期日の周知徹底、不在投票の徹底等を図るためにお願いする謝礼でございす。

投票所の雑役謝礼につきましては、投票所は二十カ所ございす。そのうち十五カ所につきましてお茶をわかつていただくとかいうようなことからの謝礼で、一カ所当たり千円を予定しております。

第二点目のポスターの掲示でございすが、掲示につきましては

は義務制と任意制がございます。県会議員の場合には千葉県議会議員選挙におけるポスター掲示場の設置に関する条例、これは千葉県の条例でございますが、それによりまして設置することができるとございしますが、今度の選挙につきましてはポスターの掲示場を設置することといたしております。そのポスターの設置箇所は百五十カ所でございます。その百五十カ所につきましては先ほどお話のありました啓蒙用のポスターではございませんで、候補者用のポスターでございます。以上でございます。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論を省略、採決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

閉 会 午前十時五十三分閉会

○議長（吉田勇治郎君） 本定例会に付議されました案件はすべて議了されました。よって、これにて第二回市議会定例会を閉会いたします。

・本日の会議に付した事件

一、議案第三十一号乃至議案第三十九号

一、請願第一号

一、議案第四十号、議案第四十一号

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長 吉 田 勇 治 郎

館山市議会議員 鈴 木 稔

館山市議会議員 菊 井 敏 博

